

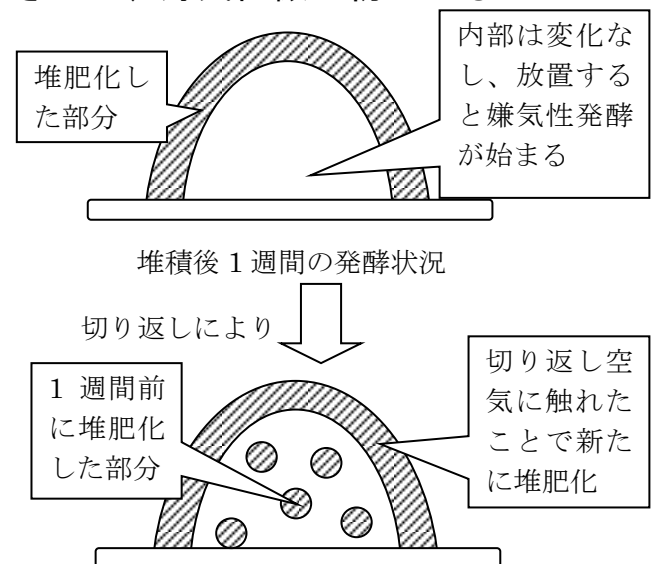


## ○好気性発酵をスタートさせましょう

好気性発酵をスタートさせるには家畜ふんが十分に空気と触れる必要があります。水分の多い「べちゃっと」した状態では通気性が悪く、家畜ふんが空気と触れ合いません。そこで、副資材や戻し堆肥などと混合して家畜ふんが「ふわっと」した状態を作る必要があります。家畜ふんの種類や副資材の材料で通気性は異なりますが、10L のバケツに家畜ふんと副資材の混合物入れて、6.5kg 程度となるよう比重調整すれば必ず好気性発酵はスタートします。

## ○空気に触れさせましょう

堆肥化をする時に切り返しを行ったり、機械で攪拌するのは、空気に触れていない内部の家畜ふんを空気に触れさせて、好気性微生物による酸化分解を促すためです。好気性発酵がスタートすると発酵熱が出て、病原菌や雑草種子などが死滅し、水分も蒸発した良質堆肥となります。空気に触れないと好気性発酵は起きず、嫌気性菌による嫌気性発酵が起こります。嫌気性発酵でも堆肥化は進みますが、発酵熱は出ず、病原菌なども死滅せず、水分も残ります。加えて、悪臭や生育阻害物質も発生し良質でない堆肥が生産されてしまいます。



## ○堆肥を販売しましょう

家畜を飼養すれば必ず家畜ふんは発生します。家畜ふんを処理する最適な方法は堆肥化です。農業者からみると良質堆肥は、農作物を生産するための肥料となり、土壌改良にもなる必要不可欠な商品です。

牛乳や肉、卵など畜産農家が販売する商品のことをみなさんはよく知っていますし、PR もしているでしょう。堆肥はどうですか？堆肥も販売する商品ならその性質をよく理解し、購入者に PR する必要があるのではないでしょうか。良質堆肥を欲しがっている方は多くいます。良質堆肥を生産し、上手に販売して収益の一部にすると考えるようにしましょう。

気になることや不明な点がありましたら、最寄りの家畜保健衛生所までご相談ください。